

# 特別対談

## あるべき医療の世界と気導術

**本部長**.. 本日は会長スペシャルセミナーに遠く島根県からご参加くださり、誠にありがとうございます。久しぶりにお会いできてとても嬉しかったです。

**福田先生**.. こちらこそ、会長をはじめ皆さんとお会いできてとても嬉しく思います。東京に来たのは、実に2年前の会長スペシャルセミナーに参加して以来です。満席の予約だったはずの航空便が、コロナ陽性者急増のせいでしょうか？乗ったら5人しかいなくて：今日は本当に皆さん集まっていたら、場所は満員でびっくりしました。

**本部長**.. 丁度また世の中大変な状況になりつつあるところですが、そんな中でも気導術の会長スペシャルを目標けて全国からたくさんの方々がお越し下さって本当にありがたい限りです。今回のセミナーでは、潜在意識そして潜在能力の領域を用いた新しいスペーススキャンテクニックを発表いたしました。気導術ならではのエネルギーである気導力と相まって、効果の実感と共に皆さんには大変喜んでいただけたように思います。福田先生は受講されていかがでしたか？

**福田先生**.. 今日このテクニックをマスターできて本当に良かったです。一日を通して学ばせていただいた感じは、このテクニックは応用できる範囲がとても広いということ。実際の施術法の効果を実感しながら分かりやすく教えていただいたことで、これはいろいろな臨床場面で即実践できるなと思いました。実際の外来だけでなく、家族や友人・知人に対してや、オンライン診療などでの遠隔治療としても時間と空間を超えて瞬時に効果を発揮できると思います。さっそく明日から楽しみに使わせていただこうと思います。

**本部長**.. ありがとうございます。福田先生はドクターとしてクリニックに勤務されていらつしやいます。その診療業務の中に気導術を取り入れていただいているとお聞きしています。実際にどのような形で活用されているのでしょうか。

**福田先生**.. 例えば問診中にカウンセリングやコンサルティングをしながら、手を触れずに心の中で「天光地心 技心 感謝します 感謝します 感謝します」あるいは「お父さんありがとうございます」「お母さんありがとうございます」と、唱えることで瞬時に効果が発揮されると、患者さんはビックリしたりで、私自身も嬉し

くなり、初診から一気にラポールが高まります。また施術に時間を掛けられない時には、物品注入法の要領でワンショットの注射や点滴に気を込めたり、軟膏や外用剤に気を注入したり、診療を終えてから入浴中や就寝前などに、その日に来院された患者さんを振り返り、みなさんが「良くなった未来イメージ」での気導力を送らせていただいております。

**本部長**.. なるほど。ご自身の気持ちと共に実際に注射などに気導力を込めていらつしやるのですね。このエネルギーによる効能を客観的に証明することは難しい面もあると思いますが、気導力を用いたからこそその手応えやご自身の中で変化したことなどはありますか。

**福田先生**.. そうですね。患者さんに対する時、例えば初診の方ですと、会



鈴木貴樹本部長

&

福田克彦医師



統合医療センター  
福田内科クリニック  
副院長 医学博士

会長スペシャルセミナー最終日 五反田東京本部にて

長の金言を真似するように「あなたはこういう風に治りますよ！」と切り切ってしまう。そうすることで、その日その場で痛みが取れたり、歩けるようになるといったことが起きます。例えばそれが100%できなくても、その日のうちに何%かでも症状が改善されることで満足して帰っていた、ということ、が、気導術を学んでからできるようになり感謝しております。ある意味、治療家は「難病を治してやる」など、変な気負いや責任感を抱かず、「治ったらいいね〜」ぐらいの気持ちで、無心にリラクセスして温もりを伝えることが大切だと思います。

**本部長**…初診でドクターから「あなたはこういう風に治りますよ!」と、声をかけていただけたなら、患者としてはこんな心強いことはないですね!

**福田先生**…それは、ある意味無責任で(笑)、気導術に責任を被せているところもあると思います。(笑)

でも気導力の力を信じているからある程度無責任になれて、「良くなりませよ」とか、2ヶ月しか余命がないと宣告されている方でも「いえ、あなたはそのようなことはありませんよ」と伝えることができるのです。また、痛み止めを使わなくても良くなりますよ、手足の麻痺があっても動けるようになりますよ、などと、明るい未来を先導しながら自信を持って言い切るなど、リハビリテーションなどでも気導力を使わせていただいています。

**本部長**…実際に結果として、そのように進んでいくことを目指すことで、結果も伴ってくる訳ですよ。

**福田先生**…そうですね。会長が仰るように、空を飛べるぐらいの高いゴールを設定していたら、地上を100キロ200キロで走るようになって当たり前になる。現状を超えたコンフォートゾーンの先取りをまず治療家自身がリアルに実感し、患者さんには一歩高いゴールを毎回の確に設定して差し上げれば、一層治療効果も上がると考えています。

**本部長**…ゴールを高く設定してくれるドクターの存在というのは患者さんからしたら本当に有難いことだと思います。不安を希望に変える「来て良かった」「治療を受けて良かった」から始まる治療だからこそ、届かせることができる結果があることを私も実感しています。

現代の細分化および専門性を高めていく体制の医療にはメリットもありますが、同時に弊害も多いと感じています。これからは、患者側としても医療をどのように利用していくのかを自身でもしっかりと考えることが大事ですね。医師の発信する情報でも、以前よりは「気」や「エネルギー」について触れる方が増えてきたように思います。ですが、これからの医療が果たすべき役割の一助としても、気導力のような「エネルギー」の概念がもっと浸透してくれたらと願っています。

**福田先生**…いまエネルギー医療とか波動・量子医学とかいろいろありますけれど、その理論は証明しにくく、臨床の場に広がっていくのはなかなか難しいと思っています。しかし治療院とか整形外科でも同じ治療を繰り返していたらやはりマンネリ化して治療も行き詰ることが容易に想像できるので、新しい治療法を取り入れる必要性があるはず。医療界という括りとしても、気導術のように新しい知恵や技術、テクニックなどの発想をどんどん積み重ねていくことで、人の自己治癒力の増進の限界もなくなると思います。対して、一般のエネルギー療法などにその傾向が見られますが、単純に他人のせいや会社のストレスのせいなど自分の外部に原因を求めるのではなく、これからの私たちは自分自身の内面や言動に問題がありながらも、「毎日生まれ変わっている」とプラス思考で前向きに突き進み、自己治癒力をいかに発揮し、発揮させるかということに目を向けることが大事だと思っています。

**本部長**…外から自分が受けた影響のせいにして治らない理由を探すのにエネルギーを費やすのは実にもったいないですね。様々な事情があるとしても、エネルギーは自分が回復に向かうための力として役立てたいものだと思います。

コロナ禍である現在も強く感じていることですが、時代や社会状況が人の身体に与える影響も大きいですね。そ

れぞれの時代に合わせるように不調の原因も様々に変化してきていますが、ここ数年は特に脳の疲労蓄積が原因で中枢性疲労の状態に陥っている方が本当に多くなりました。この、今を生きる人々に適したアプローチやエネルギーの使い方を患者さんに提供できるよう、治療家は常にアップデートしなくてはならないと思っています。

**福田先生**…私は、このコロナ禍というのはピンチじゃなくて逆に絶好のチャンスだと考えています。70年前80年前の戦時中に大本営発表があった時に、竹槍を持って女学生がB29を撃ち落とすということをメタファー(喩え)で言ったんですが、ワクチンを打てばウイルスが退治できるという考えもこれに似たところがあると感じています。実際の敵はウイルスとか鬼畜米英ではなくて、超国家権力に服従したわが国の医療政策や社会規制が問題。しかし最終的には、医者も患者さんも自分の中に問題があるのです。でもそういうった社会の仕組みに迎合してしまい、自分自身の人生を切り拓けないことが最大の課題だと感じています。この70年ぶりの鬱屈した社会状況をチャンスに変え新たな方向に進んでいくことが、これからの医療に求められていることだと思います。



## 治るべき患者さんが 寿命を縮めている！

**本部長**.. 誤解を恐れずに言うと、医師の世界では正直ドクターと呼びたくないような仕事をされている方もいらっしゃると思います。対して、先生と話していると、初心を忘れず最初に志したところから変わらなずにいらっしやるのがいつも伝わってきます。医学の進歩に伴いながら、あるいみ複雑になってきた医療体制にものを申すのはとてもパワーが必要なことです。それが、それでも声を出されている。福田先生が発信してくださっている情報を受け取ると「やはり、そういうことでですね」と実感するところが本当に多くあって、それが凄くありがたいと感じています。

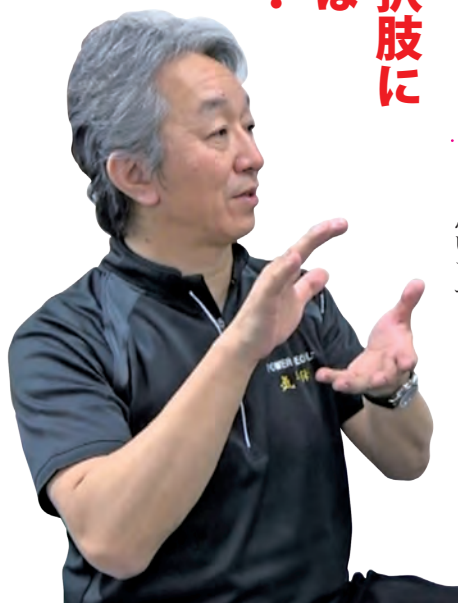
**福田先生**.. 例えば整形外科の場合、腰痛治療や膝痛治療などで漫然と可視的な骨とか関節など限局したパーツでしか判断をしないような対症療法が今もはびこっていると思います。それは学会という縄張り意識があり、マウンツを取りたい権威主義者が他分野・他業種には目を向けずにいる。異なる治療家と渡り合っていない状況もあると思います。リハビリの分野も整形外科の分野も再生医療の分野も同様です。縄張り意識が強いため治るべき患者さんが治らずに身体を壊していつて老化を早めて寿命を



縮めているというのが現実問題として存在します。そういうことを今の気導術学会の先生方がより広い視野に立って真の治療・治癒を広めていかれるといいのではないかと思います。

**本部長**.. それぞれの領域での重なる部分がありながら、そこをカバーする方法がないのが現状なのです。我々

一日も早く選択肢に  
ならなければ  
いけない！



の施術という立場で捉えると、「整形外科でこう言われました」「ずっとリハビリも頑張っています」ということへのアンサーは結果で出ずしかありません。幸いなことに喜びに繋がる結果が出る人が多いので、それは嬉しいことなのですが、ではなぜそれを第一選択肢として選ばれる病院でやらないのかと考えた時に、依然として高いハードルがあるのは事実でしょう。でも、これから時代が進んでいく中で、一日も早く選択肢とならなければいけないという思いが強くなります。

最終的に気導術だけに限らず、医療という区分の中で、人が健康になることだけを目的として生活するのではなく、もつと広い意味で治るということレベルを向上させたいですね。科学という分野を見れば携帯電話でも自動車でも凄く進歩してきたように、医療の分野でも治るということに関してもう一段二段、底が上がるべきだかなと思います。

**福田先生**.. これまででは多くの方が健康診断とか人間ドックで「検査に異常がない」ということで満足されていたと思います。それがいま、ウェルビーイングとかウェルネスなど一歩上の健康を目指して、再生医療などのアンチエイジングや、瞑想などマインドフルネスな心の持ち方を重視されるかたが増えてきました。これからは気導術で教えていただいている肌ふれあいや心の温もりなどを、離れていても繋がっている思いやる心を大事にしたい。単にAIなどが診断した画一的な治療法に従った標準治療処方方に従えばいいということではなくて、直感を活かしてもっと臨機応変に、一期一会の患者さん一人一人に心を込めて接し、最上級のエネルギーを送り、自己治癒力を高めて差し上げることが大事かと思えます。

**本部長**.. 最終的には「患者さん」という立場から、「健康法」という形で個人個人が普通に、効果というものを自分で実感できることが当たり前な環境になってくれればいいですね。

**福田先生**.. そうだと思います。これからの未来は「病院から遠ざかるほど病気がなおっていく」脱医原病・脱病院化社会を拓いていくことが大切。すなわち、病院で診断してもらえない、病名治療薬を処方してもらえない一安心という医療依存、他者依存社会から抜け出すことが大切です。誰にも備わって

いる自己治癒力の存在に目を向けて、それに対する意識を高めて自分の中の治る力を見つけていく。それによって一人ひとりが平和にハッピーに暮らしていくという世界を拓げていく。今がそのチャンスだと思えます。

**本部長**..やはり一人ひとりの意識が凄く大事ですね。私は毎年初日の出を拝みに行くのですが、その時間帯に人の意識の凄さをいつも感じさせられます。というのも、この瞬間に日本中でとても多くの人たちが、新たな年の始まりに清らかな心持ちとなつて、確実にいつもより良い気分度過している。太陽のパワーを感じるののもちろんなのですが、その日本中の意識が伝わってくるような気がして、そのタイミングの空気をもの凄く気持ち良く感じます。他にも、災害が起きた時や黙とうを捧げる時など、人々の意識によって一気に空気が変わるのを実感されている方は多いのではないのでしょうか。

**福田先生**..確かにそうでしょうね。ところでいま、東日本大震災後の1年間で、出生数という戦後最多となった一方で、出生数は2万5千人と戦後最少です。コロナ禍の1昨年は逆に超過死亡は例年より2万人減っていたのに、ワクチン接種が始まってから世界的に超過死亡が増え続けているのはなぜでしょうか？

意図的な人口削減政策が進んでいないにしても、静かに進行し続ける人口動態の激変に気づくことも大切です。このように混沌とした社会状況だからこそ、気導術学会のみなさまひとりひとりが「ノアの箱舟」となり、その危機を転換するチャンスは今だと思えます。

**本部長**..その中で気導術が担える役割それをあらためて真剣に考えていきたいと思えます。本日は、私どもの勉強会にご参加いただいたのみならず、貴重なお話を聞かせくださり、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願います。

**福田先生**..こちらこそ、今後ともよろしく願います。本日はありがとうございました。

